

ミカドネズミ

Clethrionomys rutilus mikado

ネズミ科



ミカドネズミ

魚類

底生動物

両生虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

名前の由来

ミカドについては不明。ネズミは暗い所に居るので「根棲み」、あるいは「穴棲み」から、「寝盗」からなどの説がある。漢字名：帝鼠

形態的特徴

頭胴長（鼻先から尻尾の付け根まで）80～107mm、尾長33～48mm、後足長（後足の指先から踵まで）17.5～19mm。背中の中央部が赤錆色。腹は汚白色かクリーム色。尾が短く毛に覆われ、ツートンカラーである。

類似種：エゾヤチネズミ。

エゾヤチネズミは暗褐色で、腹面は象牙色をおびた白色か汚白色で、尻尾にはほとんど毛がない。

生息環境・分布

高木林、低木林で被度・密度・落葉層の厚さの大きい所を好む。

分布：ミカドネズミはヒメヤチネズミの亜種[※]。国外ではヒメヤチネズミがサハリン、シベリア～沿海州、中国東北部、朝鮮半島北部、アラスカなどに広く分布。国内では、北海

道に分布。北海道内では、北海道本島に分布。

十勝地方では、低地から山地の草地や湿地などでみられる。

※ 亜種：同じ種が地理的に隔離され、独自の分化をとげ、形態的に違いがあるもの

食性・他生物との関わり

主に草食性。昆虫や軟体動物なども食べる。

捕食者はキツネなどで、イタチ類、タカ・フクロウ類など

も天敵となりうる。

繁殖生態・寿命

繁殖期は4～9月と考えられ、一度に2～7子（5～6が多い）を産む。殆どの個体が未成熟のまま越冬し、早く生

まれたものの一部のみが当年の夏の繁殖に参加する。寿命は不明。

興味深い話

■ミカドネズミはヒメヤチネズミの亜種。ヒメヤチネズミはサハリン、シベリア～沿海州、中国東北部、朝鮮半島北部、アラスカなどに広く分布。

■イネ科やカヤツリグサ科以外の植物を食べる。

■エゾヤチネズミに比べて劣勢であるが、海岸草原、針葉樹林に多いという。

■十勝地方のアイヌ語ではネズミ類一般を「エルムン」と呼ぶ。

配慮事項

樹林や草地、灌木林が必要。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
出現期	■													
繁殖期				■										

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994
「日本動物大百科1 哺乳類I」日高敏隆 監修 平凡社 1996
「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新

聞社 1997

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編集、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004